

2

もくぞう
木造

みづはのめのかみざぞう 罔象女神坐像	1 軀
だんしんざぞう 男神坐像	7 軀
じょしんざぞう 女神坐像	10 軀
どうぎょうしんざぞう 童形神坐像	2 軀

〔有形文化財（彫刻）〕

〔所在地〕 吉野郡東吉野村 小^{おむら}968番地〔所有者〕 丹生川上神社^{にうかわかみじんじゃ}

〔法量〕 像高 22.8～56.3cm

〔時代〕 平安時代後期～鎌倉時代

〔概要〕

丹生川上神社（中社）に伝わる20軀の神像である。主祭神である罔象女神像のほか、男神像7軀、女神像10軀、童形神像2軀が伝わる。これらは一具ではなく、像高や作風、技法から複数の作に分かれる。平安時代後期の像は15軀を数え、いずれも素朴な一木造り彩色仕上げになり、^{きりかね}截金を交えた彩色文様をとどめる像も認められる。鎌倉時代の像は5軀で、2軀は寄木造りになり、主祭神の罔象女神像は、女房装束をまといえくぼをみせ微笑む姿が、吉野水分神社の国宝玉依姫坐像^{たまよりひめざぞう}（建長3年／1251）と共通する。10軀に焼損痕が認められるが、平安時代から鎌倉時代の古像が20軀もまとめて伝存するのは貴重であり、我が国の神像彫刻史上注目される。



女神像その1



男神像その6



童形神像その2